男女共同参画に関する情報交流誌

あいのかぜ

VOL.43
2017年 春号

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民３人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

編集　男女参画・市民協働課
（〒930－8510　新桜町７－38）
☎ 443－2051　FAX 443－2176
E danjo-01@city.toyama.lg.jp

■特 集

本と出会いを楽しむ大人の部活動

読書が生み出す ワークライフバランス

本を通して交流する場「とやま月イチ読学部」。
１冊の本について語り合い交流を図る参加者たちを取材しました。

本を通した出会いと交流

「とやま月イチ読学部」は、本を通した若者の出会いと交流の場です。平成25年から始まり、富山市在住、または富山市に勤務・活動するおおむね20歳から40歳を対象に、月１回開催しています。回ごとに課題本があり、参加者は数人のグループに分かれ、進行役の進行のもと、感想を述べたり意見を交換したりします。

昨年12月の特別企画「映画鑑賞＆読書会」には、初参加の人から、30回目の参加という人まで16人が、映画鑑賞のあと、映画と原作である課題本について語り合いました。

感想を共有し広がる世界

参加のきっかけは、「読書が趣味」のほか、「読書を始めるためのきっかけがほしかった」「仕事以外で、人と出会い話す機会がほしかった」などさまざま。参加者からは、「これまでは『面白い本だった』で済ませてきたことが、意見交換し感想を共有することで、自分自身を深めるきっかけになった」「自分の趣味以外の本も読むため、本の世界が広がり、世の中にはいろいろな考え方があることがわかった」との感想が寄せられました。

また、回を重ねるごとに参加者同士の交流が深まり、読書会後に一緒に食事やカラオケに出かける人や、結婚式に出席するほどの付き合いに発展したという人もいて、「行間を読み語り合うことで、心の交流ができ仲良くなれるのではないか」との声も聞かれました。

読書で生まれる心の余裕

参加者の中には、読書時間が週に１、２時間という人や、多い時で１日３、４時間という人も。仕事の休憩時間や空いた時間などに、時間を見つけて読むという人が多く、「時間を無駄にしなくなった」「朝から読むと１日がスムーズに過ごせる」「夜眠る前に読むと、心がリセットされる」など、読書が日々の生活に良い影響を与えているようでした。

また、「知らないことがあると調べたり学んだりしようと思えるようになった」「読書は心の栄養。物ごとが多角的に見られるようになり、考え方や生き方に余裕が出てきたように感じる」と話す人もいて、限られた時間を有効に使って読書を楽しむことが心の余裕を生み、さらに、それが仕事と私生活のバランスを保つことにつながっている様子でした。

あいのかぜ編集委員の感想

人間関係を広げてさまざまな考えや本の世界に触れること、読書の時間を捻出して有意義な時間を過ごすことが、その人らしく生きることにつながっているのではないかと感じました。本の感想を語り合う参加者の、生き生きとした表情が印象的でした。

■レポート

男女共同参画とやま市民フェスティバル2016

平成28年11月20日に、市民プラザで「男女共同参画とやま市民フェスティバル2016」が開催されました。あいのかぜ編集委員がお伝えします。

弁護士の菊地幸夫（きくちゆきお）さんが、「ワークライフバランス～仕事も家庭も一生懸命～」と題して講演を行いました。練馬区社会福祉事業団理事を務め、日本テレビ「行列のできる法律相談所」「スッキリ！！」などでコメンテーターとしても活躍しています。

講演では、司法研修所刑事弁護教官を務めていた頃のお話や現在の弁護士業務、地元のバレーボールチームでの監督の経験、家庭のことを、観客との会話やユーモアを交えながら話されました。

「ワークライフバランスという言葉が広まっているが、私生活で何をすればよいのかを考えることが大切。男性は女性と比べて地域での活動に積極的でない。そのために退職後に自分の居場所を見つけられず、トラブルを起こす人もいる。仕事だけではなく私生活で周りと関わりを持ち、地域での自分の居場所を見つけてほしい。必要なものは素の自分を表現する人間力。仕事とは異なる地域の文化の中で勝負してほしい。逆に高い人間力がある女性は、仕事など、社会にその能力をどんどん活用してほしい。ワークとライフの好循環によって、日本はもっと活気のある社会になっていくのではないか。」と語ってくださいました。

また、県内で主に活動するTOYAMAヴォーカル・ソレイユ（女声ユニット）によるミニライブも行われました。メンバーそれぞれが仕事と家庭、ソレイユでの活動をこなし、まさしく菊地先生の講演テーマ「仕事も家庭も一生懸命」です。

「家族の協力があるからこそ、活動が続けられる」と家族に感謝しながら、明るい歌声と美しいハーモニーで観客を魅了しました。

男女共同参画推進センターからのお知らせ

▶各種相談を行っています

・ＤＶ（配偶者・パートナーからの暴力）相談

ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）とは、配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力のことを言います。夫婦・パートナー間の悩みなど、ひとりで悩まず相談してください（来所相談については、電話予約をお願いします）。

［ＤＶ相談専用電話　☎433－2210］

・弁護士による夫婦・男女に関する法律相談

・女性臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談

※相談日程は、毎月、広報とやま20日号で案内しています。

▶男女共同参画講座を開催しています

男女共同参画に関するテーマで、さまざまな学習啓発講座を無料で開催しています。詳細は、広報とやまに随時掲載します。気軽に参加してください。

問い合わせ	男女共同参画推進センター （CiC３階：新富町一丁目） ☎433－1760

「あいのかぜ」の編集委員を募集します

募集資格　市内在住の20歳以上の方で、平成29・30年度の２年間、編集委員として活動し、平日の日中に開催される編集会議に常時参加できる方（「あいのかぜ」は年２回発行。編集会議は年10回程度）

募集人数　３人（面接により選考）

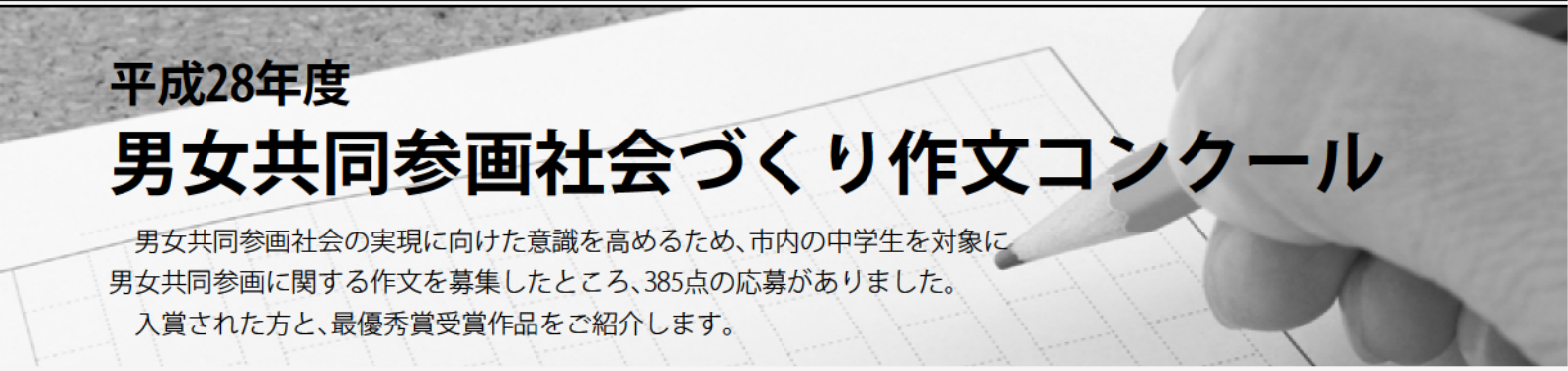
任　　期　委嘱した日から平成31年３月31日まで

仕事内容　企画、取材、原稿作成、レイアウトなど

応募方法　４月21日㈮までに所定の応募用紙に必要事項を記入し、直接またはFAX、郵送、Ｅメールで、**男女参画・市民協働課**（〒930－8510　新桜町７－38：市役所３階）へ。

※応募用紙は、男女参画・市民協働課、男女共同参画推進センターにあります（Ｅメールで応募の方は応募用紙のデータを送信しますので、連絡してください）。

問い合わせ	男女参画・市民協働課 ☎443－2051　FAX443－2176 Ｅdanjo-01@city.toyama.lg.jp



平成28年度
男女共同参画社会づくり作文コンクール

男女共同参画社会の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に男女共同参画に関する作文を募集したところ、385点の応募がありました。
入賞された方と、最優秀賞受賞作品をご紹介します。

<最優秀賞>
中斎美希さん（月岡中学校２年）

<優 秀 賞>
河野利冴さん（東部中学校２年）
佐伯修都さん（大沢野中学校２年）
辻井悠翔さん（堀川中学校２年）
柳瀬優衣さん（北部中学校１年）

<佳　　作>
大村真菜さん（堀川中学校２年）
黒田まどかさん（堀川中学校１年）
坂井華奈美さん（大沢野中学校３年）
説田彩乃さん（西部中学校３年）
田近志織さん（北部中学校１年）
中元瑠那さん（和合中学校２年）
保科さくらさん（和合中学校３年）
堀瑞莉穂さん（岩瀬中学校２年）
松本花音さん（呉羽中学校１年）
村椿拓夢さん（興南中学校１年）

最優秀賞

「女性の活躍について思ったこと」

月岡中学校２年　中斎　美希

私は、将来女性警察官になりたい、そして女性が活躍する社会の中で過ごしていきたいと思っています。

最近、私はよく「女性〇〇〇」という言葉を耳にします。「女性大統領」「女性知事」など。しかし、私はこの「女性〇〇〇」という言葉に違和感を覚えていました。

昔は、女性は結婚したら仕事をやめて、家庭に入るというのが当たり前でした。しかし最近は「男女共同参画」という言葉が当たり前に使われ、女性も男性も同じように仕事をし、男性と女性は平等だとする考え方が広まっています。

私は、先日、職業体験学習で警察署へ行き、貴重な体験をさせていただきました。その体験の中で、男性警察官と同じくらい心も体も強い女性警察官がたくさんいらっしゃることが分かりました。また、警察署も社会も、女性警察官の力を求め、尊重していると感じることができました。私もそんな女性警察官として市民を、県民を守っていけるようになりたいと改めて思うことができました。女性ならではの感性を生かし、幅広く活躍されている警察官が多いことや、育児休暇等女性が安心して働くことのできる制度が設けられているということも分かりました。この制度は、今後もっと増えていく女性警察官たちの心の支えとなり、大切にされていくのではないでしょうか。

今、この時代を生き、そして未来を生きていく私たちにとって、「男女共同参画」はとても大事なことであり、女性の活躍が社会にとって不可欠なものとなっていくはずです。男性と女性は平等であり、たとえ違いがあったとしても、その違いを理解し合い、個々の良さや力を充分に発揮できる社会を目指し、つくっていくことが必要です。私は、将来、そんな社会を支えるような女性警察官となり、活躍したいと思っています。市民や県民、また地域の方々とのふれ合いや交流を大切にし、信頼関係をより深く築くこと、そしてなにより、男性警察官の方たちと助け合い、支え合いながら女性警察官としての仕事を全うすること、これが私の目標です。この私の目標を達成するためには、男女が、共に支え合っていけるような社会を築くことが必要となるはずです。これが今の私の考えであり、願いです。

編集後記

春日編集委員

「とやま月イチ読学部」の取材で、趣味が生活に張りをもたせるのだと再認識しました。時間に追われる日々ですが、心に余裕をもち、充実した暮らしが送れるように心がけたいと思います。２年間ありがとうございました。

坪田編集委員

男女の役割や個性について、この２年間たくさんの方々に話を伺い学ばせていただきました。男女を超え、会話を楽しみ、お互いを認め合うことが、いろんな場面で大事なことかなと思いました。２年間ありがとうございました。

松尾編集委員

菊地先生の講演を聞いて、仕事だけでなく、私生活でどう周りと関わっていくかを考えるきっかけになりました。あいのかぜ編集委員を経験して得た貴重な学びを生かしながら、より良い毎日を送れるように頑張りたいです。ありがとうございました。